

戸田市薬剤師会 定例理事会議事録

記録日	R3.11.16
記録者	芹澤

日時	令和3年11月16日 13:00~15:00	出席者	染川、武長、野口、小澤、鎌田、 芹澤、
場所	多世代交流館 A 会議室		

議題

会長報告
副会長・委員会報告
理事・委員会報告
その他

会議内容

染川会長

●各薬局にも通知が届いていることと思うが、地域薬剤師会内で、新型コロナの経口治療薬が安定供給されるまでの備蓄薬局を2~3件選定する必要がある。野口副会長より小分けのシステムを維持することが大前提であり、会員薬局が困ることのない様夜間土日にも対応可能である薬局が望ましいのではないかと意見あり。一同賛同。災害拠点薬局である第一薬局は自ら手を挙げていただいた。もう1件については休日当番の実績のある戸田薬局という声があがり、武長先生も了承。薬価や購入、配布方法など不明瞭な通知になっており、想定での話ししかできないが、これらの薬局が購入や流通・在庫について<不都合><不利益>を被らないように会としてサポートすることでも全会一致で承認された。併せて、小分け購入などに関連する会員からの要望で、「薬局間での取引について、たとえば消費税を外税にして取る取らないだとか、価格を統一する、参考価格を決めるなどの会員間のやり取り」について当会内で仕切れないか議論された。しかし総務委員長の芹澤より「これは事業者ごと判断する事柄であり、当会内で統一することはできない」との従来からの見解を説明した（後日、埼玉県薬剤師会に確認したが、独禁法に抵触することを根拠に、価格の統一などはできない旨の説明あった）。

●注射針の回収について、グーグルフォームでアンケートを作成した。確認後会員にアンケートを募るが、どのようなスタイルでHPに載る（載せる）のか、そもそも市の環境課は当会側の背景をしっかりと理解したうえで回答しているのか、について詰めなければならないことを言及。

●公平HPの発熱外来リーフレットについては、個別の医療機関を公益性のある薬剤師会でくばることはどうか、という意見が内外からあり、当会会員薬局への配布は行わないこととした。

●前回理事会でも触れた、フードパントリーボランティア事業へのサポートについて説明された。被支援者の特徴として、コロナ禍にあること、外国人の居住者も増えていることをふまえ、当会としてサポートすることに全会一致で承認された。具体的には、期限切迫食品の提供を行う。

武長副会長

- 選挙について、結果はともかく無事終わりました。
- 学校薬剤師委員会において、現在浮遊粉塵、照度の検査を行っている。12/9は二酸化炭素測定の説明、検知管配布あり。野口副会長より照度検査機器について、メンテナンス、補正ができていて、会員の先生が安心して使用できる状態か、今一度確認が必要ではないか、との意見出された。学校委員会にて継続審議する。

野口副会長

- 医療介護連携委員会に出席。MCSの医師会のネットワークに薬剤師の数が少ないとの感想をもらっているとのこと。
- ロゴ作成について、現ロゴが当選したことを発表。染川会長から現ロゴが投票できるようになった経緯を合わせて説明された。今後現ロゴを使ってステッカーの制作を総務委員会か、広報委員会で行うよう依頼され、芹澤総務委員長快諾した。
- 蕨戸田医師会の在宅医療連携室の矢作様より、ターミナル患者をうけてくれるクリニックを探しているが、薬剤師側のニーズも掘り起こしたいとのことで野口副会長を通じて依頼あり。麻薬の備蓄や輸液管理等の問題あるが、引き続き保険委員会中心に議論して協力体制を気づくことを前回の理事会で全会一致で確認したが、一歩進めて麻薬の備蓄リストのようなものを作成できないか提案あり。各委員初めは難色を示していたが、当会として品目がある程度絞ったうえで主体的にリストを作り、処方時には備蓄薬局に患者を紹介することができれば、その患者のかかりつけ薬局は対応する時間ができ余裕をもって対応できるとの話になり、参加役員前向きに議論することとなった。

<危機管理災害対策委員会>

- 前回、前々回の理事会に続き、現在の課題について抽出した。
 - ・災害拠点薬局（第一薬局）の整備についての具体策
 - ・会としての備蓄品の選定
- 「市中で不足する」「市民に供給」を前提に、できるだけ各薬局でランニング備蓄できるものを選定する。予算は10～15万。

小澤理事

<保険薬局委員会>

- 戸田中央病院薬剤部とは引き続き薬薬連携をするための話し合いを進めているとのこと。ここで野口副会長より、薬薬連携に対しては公平病院や中島病院も薬薬連携の対象になるので、当会主導で何ができるのか一度再確認をして、その後双方で話し合う必要がある、との見解を示し、全会一致で確認された。

鎌田理事

<学術研修委員会>

- DIニュースを発行することになった。1枚にまとめ、読みやすく作成するとのこと。
- オンラインでの学術講演会を東和薬品で予定している。出荷調整、欠品の多い現在において「GMP」の話をしてもらえる予定。

●会員よりシール付きの学術講演会を行ってほしいとの声が上がっているが、現在研修センターがシステム変更の最中であり、QR コードの読み取り機などは届いているがしばらくの間開催申請は難しいとのこと。

鯨井理事

<地域連携委員会>

●鯨井理事は欠席であったが、野口副会長から地域連携委員会開催の様子や、委員長、委員の先生方の熱量について報告あり。新しい委員会であるが、進むべき日が見えてきた様子あり。

佐貫理事

<薬学性実務実習委員会>

●佐貫先生は欠席であったが、事前に要件をうかがっていた芹澤副会長より報告あり。セルフメディケーション実習について、もう一度イオン薬局北戸田店竹重先生に相談してみたところ、前向きな回答をいただいたので、一度佐貫委員長一人で話し合いに出向くとのこと。

●小澤理事より、学生引率時等の実習費用支払いのタイミングと領収書を発行するタイミングについて確認あり。実際には薬局間での取り決めで行っているが、過去に領収書が手元にない事態が発生したことがあるのと問題点の指摘があった。佐貫委員長へ報告し、対策を練っていただくことを確認した。

芹澤副会長

●クイズ☆ウォークラリーについて結果報告。積極的、主体的に参加していただいた薬局が多く、参加者からもおおむね好評であった。今回は野口副会長、芹澤総務委員長で共催相手と会議を重ねて実施にこぎつけたが、この経験を活かし、今後は当会独自の施策として行っていくこと、地域連携委員会が主導で行うことで全会一致で承認された。

●理事会の開催頻度と議論の進め方について提案。2か月に1回だと前回の議論を思い出しながら、となってしまう時間がかかる。それに加えその場で提案されることが多いので、考えをまとめておくという時間がないことがある。この2つの問題を解決するために、

1. 開催を月1回にする。
2. 開催の1週間前までに会長に議案を提出し、それを各役員に流すことで事前に考えをまとめて出席することができる。

この2点を提案し全会一致で承認された。なお、原則第3火曜に開催する事となった。

決定事項

- 理事会月に1回、原則第3火曜日に開催
- 新型コロナ傾向治療薬の配布在庫先薬局「第一薬局」「戸田薬局」
- 学術研修員会によるDI ニュース刊行
- 学術研修委員会による研修会「東和薬品によるGMPのWeb説明会」

検討事項

- 会費の一部返還等会費の有効活用について
- 災害拠点薬局の整備の具体策
- 災害備蓄品の選定
- HPの有効活用

- 注射針の回収事業
- セルフメディケーション実習の受け入れ先の選定
- 麻薬リスト作成
- クイズ☆ウォークラリーの継続
- 保険薬局委員会による薬薬連携の構築、深化
- 地域連携委員会のサポート体制
- フォードパントリーなどへのサポート体制